

審査員リレーエッセイ ⑨②

From
愛知県丹羽郡
佐伯 貴志
(さえき たかし)

Profile
専門分野：ISO 9001・ISO 14001—食品・化学・繊維・製造業全般・建設・不動産
経歴：株式会社安田総合事務所、一般財団法人三重県環境保全事業団、インターテック審査員（現職）



審査員からのエッセイをお楽しみください。

「今を生きるブラジル人からの学び」

2018年から5年ほど、妻と共にブラジルで暮らし、日本人とブラジル人の思考の違いを実感しました。日本人は過去・現在・未来を繋げた「線の思考」であるため、計画性が高く、同じ失敗を繰り返さない強み（是正処置）がありますが、とすると頭の中が過去への後悔、未来への不安でいっぱいになり、「今」を生きていないことがあります。



一方、ブラジル人は「今」に全力投球する「点の思考」が強いため、計画性が弱く、その場しのぎの修正処置だけで毎日を生きている感じがしますが、「今」という瞬間を毎日楽しんで生きています。私にとって、「今」を大切にし、楽しむことの大切さを学べたことは大きな財産です。

連載 「ゆらぐ時代と、つなぐ力」 ④

環境よみもの

「人を『育てる力』— ESG経営を支えるISOの価値

船井 勲 Isao Funai

品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム主任審査員/IRCA認定 品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム主任講師

これまで「ゆらぐ時代と、つなぐ力」をテーマに、ISOが企業経営に果たす役割について述べてきました。今回は、企業価値を高める「人を育てる力」と、ESG経営を支えるISOの役割について考えます。

■ 社会の変化とISO 2015年版が示した価値創造

リーマンショック以降、企業経営の考え方は大量生産・大量消費を前提とした成長モデルから、社会課題を踏まえた価値創造へと転換が進み、ESG投資やSDGsへの対応が企業評価に影響を与える時代となりました。

その流れの中で改訂されたのが、ISO 14001:2015です。環境活動を単独で管理し環境負荷を低減するだけでなく、社会課題への対応を通じて企業価値を高めるという考え方です。

■ ISO 14001:2026とESG経営へのつながり

約10年が経過し、ISO 14001:2026が発行されました。その内容は新たな要求事項を大幅に追加するものではなく、旧版で示された考え方を、現在の社会環境に合わせてより明確化するものです。気候変動、生物多様性、資源循環、サプライチェーンなど、企業を取り

巻く課題が複雑化する中で、改めて2015年版が求めた「価値の創造」と「ESGに配慮した活動」の重要性が問われています。

以前、前執筆者の郷古氏が本誌vol.53（2016年7月号）、vol.55（2017年1月号）などで紹介されたESG投資、SDGs、SDGコンパスといった考え方は、企業が社会課題と向き合い、持続可能な成長を実現する方向性を示していました。10年を経た現在、読み返してみると、その考え方はISO 14001:2026が示す方向性と深くつながっていることが分かります。

■ ESG・SDGsを実現するISOの実践力

ESG投資やSDGsで企業に求められているのは、気候変動や資源問題、人材育成などの社会課題を自社の経営課題として捉え、具体的な行動へ落とし込み、継続的に改善することです。

ISOは、その実践を支える基盤です。目標を達成するためには、まず必要な力量を持った人材を育成し、教育訓練によって確実に業務を遂行できる状態をつくることが重要です。そして、その活動が有効であるかを内部監査で確認し、マネジメントレビューによって経営層が評価・判断し、次の改善へつなげていきます。

■ 仕事の精度を高める仕組みづくりと人材育成

本連載の第2回、第3回でも述べたように、ヒューマンエラーは人が関わる以上、完全になくすることはできません。重要なのは、個人を責めるのではなく、発生した事象を組織の学びとして活用することであり、その中核となるのが是正処置です（第2回、第3回参照）。

業務精度を高めるためには、SOP（標準作業手順書）の作り込みと実践的な教育訓練が欠かせません。SOPは単なる手順書ではなく、経験者の判断や注意点を反映し、誰が実施しても一定の品質を確保できる仕組みです。教育も知識を伝えるだけではなく、実際に作業を確実に遂行できる力量を身に付けることが重要です。

ISOは、「真の原因を追究すること」「仕事の精度を高めること」「人を育てること」を通じて、ESG経営を実践し、企業価値を高めるための経営のツールです。社会課題への対応と持続的成長が求められる時代において、ISOは経営と現場、人と社会、そして現在と未来をつなぐ羅針盤であり続けると考えています。